

# 高知県高岡郡梼原町のフィールドワーク

## —「フィールド実習Ⅱ」の報告—

橋尾直和・小林奈津美・佐藤香織・藤林愛・清家裕里奈・中村陶子・米原加也

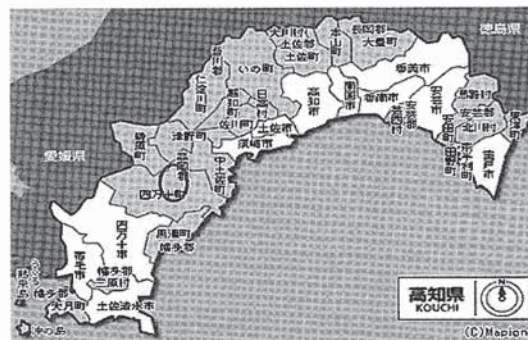
### 1. はじめに

本報告は、2009年9月27日から29日まで、「フィールド実習Ⅱ」と四万十かいどう推進協議会が行っている「四万十かいどう」風土調査とタイアップして実施したフィールドワークの調査報告である。調査は、参加した学生が2グループに分かれて、インフォーマント（資料提供者）にそれぞれつき、調査票に基づいて聞き取りをする直接調査法を採用した。調査内容は、「天候に関することわざ、雨・雪の名称、妖怪の名称・禁忌の伝承」など、山間部の生活語である。

梼原町の農家民宿「いちょうの樹」で合宿し、地元の方々とふれあいながら調査に取り組んだ。初日は、棚田、三嶋神社、四国カルストの見学、夜は民宿で家族の方たちとバーベキューをしながら、皆で歌って食べて文化談義を行った。2日目は、龍馬脱藩の道を見学、風土調査を行った後、夜はいろりを囲みながら、偶然お泊まりになっていた高知新聞社の若手の記者さんらと、山間部の暮らしや若者ことばなどについて意見交換をした。3日目も引き続き風土調査を実施した。

### 2. 調査地点の概要

調査地点



調査地点の高知県高岡郡梼原町は、平成22年1月末現在総人口3,965人（男性1,872人 女性2,093人）である。明治維新の変遷を経て明治22年（1889年）の、6ヶ村を「西津野村」と改称し、全国屈指の大村として発足。明治45年（1912年）村名を「梼原村」と改め、さらに昭和41年（1966年）町制を施行して「梼原町」となった。主なイベントには、四国神楽大会（6月）、高原祭り（8月）などがある。特産物には、ナス、カルスト牛などがある。

### 3. 梶原町仲間の言語文化

調査地点は、高知県高岡郡梶原町仲間。

インフォーマント（資料提供者）は、大正13年3月25日生  
（調査時85歳）の上田信昌さん。

梶原町仲間生まれ育った、生え抜きの話者である。



#### 3.1 天候に関することわざ

##### ◆ 雲に関するもの

- ・クモonga アンガレバ テンキガワルイ（雲が上がれば天気が悪い）
- ・クモonga アンガルト アメニナル（雲が上がると雨になる）

※「雲が上る」は、雲が東から西へ動く、山奥のほうへ動く、川上のほう動くこと。

- ・クモonga ンデルト テンキニナル（雲が出ると天気になる）
- ・クモonga ンデルト ヒヨリニナル（雲が出ると日和になる）

※「雲が出る」は、雲が西から東へ動く、里のほうへ動く、川下のほうへ動くこと。

- ・アサングモリ ハゲンガ ナク（朝曇り禿が泣く）
- ・アサギリニ ハゲンガ ナク（朝霧に禿が泣く）
- ・アサモヤワ ハヒルノヒヨリ（朝もやは昼の日和）
- ・ナツノアサギリワ ハゲンガ ナク（夏の朝霧禿が泣く）
- ・アサツユンガ オーイノワ アシタノハレ（朝露が多いのは明日の晴れ）
- ・エボシヤマニ モヤンガカカルト アメ（烏帽子山に霧（もや）がかかると雨）

##### ◆ 霜に関するもの

- ・シモンアガリ（霜あがり）

##### ◆ 生物に関するもの

動物に関するもの

- ・ハチノスガ タカイトシワ シケンガコン（蜂の巣が高い年はシケ（台風）が来ん）

##### ◆ 病気に関するもの

- ・ロージンノカンセトウガ イタムト アメンガフル（老人の関節が痛むと雨が降る）

#### 3.2 雨の名称

- ・オーアメ（大降りの雨）
- ・コサメ（小降りの雨）
- ・サダチアメ（夏の午後から夕方にかけて、にわかに関り出す土砂降りの雨。短時間で晴れ上がる雨（夕立）のこと）

- ・ナツガセ／ツユ（六月頃から長く降り続く雨（梅雨））
- ・ドシャブリ（雨がどンドン降ること）。

### 3.3 雨に関連する語

- ・ミドゥタマリ（雨が上がったあとで道路にたまった水）
- ・ニジ（雨が上がったあとで太陽と反対側の空にかかる七色の帯（虹））
- ・ヌカルミ（雨や雪が降ったあとで泥がゆるんでぬかるんでいるところ）
- ・ヒンデリトゥドッキ（暑い晴れの日が続いて雨が降らず、水が溜れてしまうこと）

### 3.4 雪の名称

- ・ビソレ（雨交じりの雪）
- ・ビソレユキ（水気を含んだ雪）特になし。
- ・ボタレユキ（ボタンの花のように大きくてフワフワした雪）
- ・ザラメユキ（金平糖のようにざらざらした雪）

### 3.5 川の名称

- ・カワカミ（川の上の方（川上））
- ・カワシモ（川の下の方（川下））
- ・オチアイ（川と川が合流するところ（川合））を何といいますか。
- ・カワムコー（川の向こう側（川遠・川向こう））
- ・フカミ（川の水深が深いところ）
- ・アサセ（川の水深が浅いところ）
- ・ナカガワラ（川の中で川底が水面に出て島のようにになっているところ（中州））
- ・キューリュウ（川の流れの速いところ）
- ・チューリュウ（川の間地点）
- ・オツガワ（小さい川や流れが細い川のこと）
- ・カレガワ／ヒンガワ（水が無くなってしまった川や表面に水の無い川（水無瀬川））

### 3.6 妖怪の名称

1. 「えんこう」という妖怪について聞いたことがありますか。

ある。

a. それを見たらどんなことが起こるといわれていますか。

知らない。

b. それを退散させるおまじないにはどのようなものがありますか。

知らない。

2. 「しばてん」という妖怪について聞いたことがありますか。

ある。

- a. それを見たらどんなことが起こるといわれていますか。

知らない。

- b. それを退散させるおまじないにはどのようなものがありますか。

知らない。

3. 山に関する妖怪について聞いたものにどのようなものがありますか。

山犬。(=犬神)

- a. それを見たらどんなことが起こるといわれていますか。

不幸にあう。事故にあう。

- b. それを退散させるおまじないにはどのようなものがありますか。

赤飯を炊いて自分を守ってくれるよう頼んだ。

4. 川に関する妖怪について聞いたものにどのようなものがありますか。

エンコー

- a. それを見たらどんなことが起こるといわれていますか。

知らない。

- b. それを退散させるおまじないにはどのようなものがありますか。

知らない。

### 龍の話について

長谷(隣村)に、ながその滝があり、そこで龍のうろこを拾って持って帰ったところ、夜眠れず、良くないことが起こった。そこで、うろこを戻して拝んで帰ると、その後落ち着いて暮らせたと言われている。

### 3.7 禁忌の伝承

1. 「山では弁当を全部食べられん」という言い伝えは、

a. 今でも使っている。

b. 聞いたことがある。(昔はよく言われていた)

c. 聞いたことも使ったこともない。

ヒッダル(ひもじい)神に残りの弁当をあげると良いとされていた。

2. 「山の窓木は伐られん」という言い伝えは、

a. 今でも使っている。

b. 聞いたことがある。

c. 聞いたことも使ったこともない。

窓木=間道は自然にできるものだから、窓木ができないようにしていた。

間道は「魔道」と呼ばれ、嫌がられていた。

3. 「カラスが鳴くと人が死ぬ、カラスが三羽飛ぶと人が死ぬ」という言い伝えは、

- a. 今でも使っている。
- b. 聞いたことがある。
- c. 聞いたことも使ったこともある。

家族や親戚が病気になったり、死んだりすると言われていた。

4. 「生き花を髪に挿すものではない」という言い伝えは、

- a. 今でも使っている。
- b. 聞いたことがある。
- c. 聞いたことも使ったこともある。

5. 「障子の穴から覗くもんじゃない」という言い伝えは、

- a. 今でも使っている。
- b. 聞いたことがある。
- c. 聞いたことも使ったこともある。

子どものしつけのため。

いたづらをしないように。

### 3.8 民具にまつわる話

- ・ジンダイ（松竹梅それぞれの木材で手作りされたもの）

## 4. 梶原町大蔵谷の言語文化

調査地点は、高知県高岡郡梶原町大蔵谷。

インフォーマント（資料提供者）は、大正13年12月21日生

（調査時84歳）の明神文雄さん。

梶原町仲間で生まれ育った、生え抜きの話者である。



### 4.1 天候に関することわざ

#### ◆ 雨に関するもの

- ・アスノテンキアメ フルテンキッデナイ（明日の天気雨降る天気でない）という言葉遊びのよ  
うなものを聞いたことある。明日は天気がいいという意味と、明日は雨が降って天気がよくな  
い、という2つの意味にとれる。

#### ◆ 光音に関するもの

「朝焼けに川渡りすな」「朝焼けは今日の雨」「夕焼けは明日の日和」「朝焼けに鎌研ぐな」以上の3つは聞いたことがあり、「朝焼けすると雨が降る」ということは知っているとのこと。

#### ◆ 雲に関するもの

・クモツガ ノボルト アメニナル（雲が上ると雨になる）

・クモツガ ハイルト アメニナル（雲が入ると雨になる）

「雲が上る」「雲が入る」は、雲が東から西へ動く、山奥のほうへ動く、川上のほう動くこと。

・クモツガ クツダルト テンキニナル（雲が下ると天気なる）

・クモツガ ンデルト テンキニナル（雲が出ると天気になる）

・クモツガ ンデルト ヒヨリニナル（雲が出ると日和になる）

「雲が下る」「雲が出る」は、雲が西から東へ動く、里のほうへ動く、川下のほうへ動くこと。

「朝曇りは禿がなく」は、聞いたことがある。「禿がなく」のは、天気になるということは知っている。

#### ◆ 天体に関するもの

雪や太陽に関するもので、「月夜の晩は番は行きつまず、闇夜の晩に雪がつむ」は、聞いたことも使ったこともないが、「静かな寒い晩」に雪が積もることは知っている。

### 4.2 雨の名称

・サツダチ（降ったりやんだりする雨）

・ソドシャブリ（大降りの雨）

・ユウダチ（夏の午後から夕方にかけて、にわかにより出す土砂降りの雨。短時間で晴れ上がるこの雨（夕立））

・ヒヨリアメ（日が照っているのに、さっと降る小雨（天気雨））

・ジャマアメ（都合が悪いときに降る雨）

・トゥウ（六月頃から長く降り続く雨（梅雨））

### 4.3 雨の降り方に関する語

・アメフリ（雨が降ること）何といいますか。

・ヨーフル（雨がどどん降ること）

・コジャントフル（雨が激しく降ること）

・シトシトフル（雨がしとしと降ること）

### 4.4 雨に関連する語

・ミッドツマリ（雨が上がったあとで道路にたまった水（水溜まり））

・ニジ（雨が上がったあとで太陽と反対側の空にかかる七色の帯（虹））

・ビツチャンコ（雨や雪が降ったあとで泥がゆるんでぬかるんでいるところ（ぬかるみ））

- ・ヒンペリ (暑い晴れの日が続いて雨が降らず、水が溜れてしまうこと (日照り))

#### 4.5 雪の名称

- ・ミゾレ (雨交じりの雪)
- ・コナユキ (さらさらした雪)
- ・ボタユキ (ボタンの花のように大きくてフワフワした雪 (ボタンユキ))

といますか。

特になし

#### 4.6 川の名称

- ・カワカミ (川の上の方 (川上))
- ・カワシモ (川の下の方 (川下))
- ・カワムコー (川の向こう側 (川遠・川向こう))
- ・フチ (川の水深が深いところ)
- ・ナカス (川の中で川底が水面に出て島のようにになっているところ (中州))
- ・ミッドウंगा ンデチュー (川の水の量が増えること)
- ・ミッドウंगा ヘッチュー (川の水の量が減ること)
- ・セ (川の流れの速いところ)
- ・オングワ (小さい川や流れが細い川)
- ・シリナシガワ (途中でなくなる川のこと (尻無し川))

#### 4.7 妖怪の名称

1. 「えんこう」という妖怪について聞いたことがありますか。(ある)

エンコー

「エンコー」は、かわうそも含める。「かわうそ、河童」を含めて「エンコー」と呼ぶ。

- a. それを見たらどんなことが起こるといわれていますか。

事故が起こる

- b. それを退散させるおまじないにはどのようなものがありますか。

鹿の角を持って川に行けば事故にあわない

2. 「しばてん」という妖怪について聞いたことがありますか。(ない)

3. 山に関する妖怪について聞いたものにどのようなものがありますか。(ある)

ヤマノカミ (山の神様)、ヒンダルカミ (空腹を感じさせる神様)

- a. それを見たらどんなことが起こるといわれていますか。

特になし

- b. それを退散させるおまじないにはどのようなものがありますか。

昔は山に行ったとき、弁当を食べる前にまずヤマノカミに供える意図で石の上に弁当の一部を

おくなどしていた。

4. 川に関する妖怪について聞いたものにどのようなものがありますか。(ある)

エンコー

5. こちらで昔よく出たといわれている妖怪は何といいますか。(ない)

「馬が淵」の由来

昔々、中洲においてあった馬をエンコーが淵に引きずりこんだ。怒った馬主がエンコーをつかまえた。すると、エンコーは許してもらい代わりに、魚を毎日馬主へ届けるようになった。しかし、欲をだした馬主が鹿の角で作った、魚をたくさん指すことができる棒をつくり、もっと多くの魚をもらおうとした。すると、エンコーは魚を持ってこなくなってしまった。このことから、梶原神社（お宮）の下の、エンコーが馬を引きずり込んだとされる梶原川の淵のことを「馬が淵」と呼ぶようになり、「川へ行くときは鹿の角を持っていけば事故にあわない。」というおまじないが生まれた。

#### 4.8 禁忌の伝承

1. 「山では弁当を全部食べられん」という言い伝えは、

- a. 今でも使っている。
- b. 聞いたことがある。
- c. 聞いたことも使ったこともない。

聞いたことがある。

今はしていないが、昔は山に行ったとき、弁当を食べる前にまずヤマノカミに供える意図で石の上に弁当の一部をおくなどしていた。

「ヤマノカミ」は山の神。いい神様というイメージ。「ヒンダルガミ」は空腹感を感じさせる神様。良い、悪いの区別はできない。

2. 「山の窓木は伐られん」という言い伝えは、

- a. 今でも使っている。
- b. 聞いたことがある。
- c. 聞いたことも使ったこともない。

どうして伐ってはいけないかは不明。どうしても伐らなければいけない場合、木を伐ってしまってから、その跡に榊を植える。

3. 「カラスが鳴くと人が死ぬ、カラスが三羽飛ぶと人が死ぬ」という言い伝えは、

- a. 今でも使っていますか。
- b. 聞いたことがありますか。(前半のみ。後半はc)
- c. 聞いたことも使ったこともありませんか。

「カラスが鳴くと人が死ぬ」は聞いたことがあるが、「カラスが三羽飛ぶと人が死ぬ」というのは、聞いたことも使ったこともない。カラスは、不吉なことが起こるという印象がある。

4. 「生き花を髪に挿すものではない」という言い伝えは、

- a. 今でも使っている。



b. 聞いたことがある。

c. 聞いたことも使ったこともない。

5. 「障子の穴から覗くもんじゃない」という言い伝えは、

a. 今でも使っていますか。

b. 聞いたことがありますか。(おそらく、聞いたことがある)

c. 聞いたことも使ったこともありませんか。

#### 4.9 残しておきたい方言

• オベツガシマシタ

失礼しましたの意。

オベツガは、オブエツガ（笑顔がないこと）から、無愛想、失礼の謙譲語にあたる。

理由：昔生徒が職員室を出るときに使っていて、大変珍しいと思ったから。

• アシラウ

いたわる、養生するの意。

オマン ヤミアンガリッヂャケ トーブン アシローチョリヨ（おまん、病み上がりぢャけ、当分あしろうちよりよ）

理由：相手を思いやるいい言葉だから。

• ッゴネンガイリマシタ（御念がいました）

贈り物、賜りものに対するお礼の言葉

#### 4.10 残しておきたい風景



• 千枚田

理由：人間の生活には水や食料が不可欠である。

そのために先人が長い時間を欠けて作った  
努力の結果が「千枚田」だから。

• 広野番所跡えのき

理由：昔橋をつないでいた榎ものこっており、  
梶原町と水や川の深い関係が垣間見られるから。



## ・八百とどろ

理由：水量の多いときには、巨大な岩の間を水がすごい勢いで流れていく。自然そのものの美しさが残っている。自然にできたものに人がひきつけられているか（写真なし）。

## 5. おわりに

いろりを囲んで、土佐の山間部の山の幸・川の幸を思う存分食べることができた。梶原町の歴史・文化・環境に触れることができたフィールド実習であった。

梶原町における残しておきたい方言・風景は、「四万十かいどう」の公式HPに掲載する予定である。フィールドワークの内容を、情報発信することが目的である。是非、参考URLにアクセスしていただきたい。文化学部が収録した地元の方のメッセージが掲載されている。「フィールド実習Ⅱ」による四万十市西土佐地区・大月町柏島・黒潮町（旧大方町と旧佐賀町）の取り組みが掲載されている。今後も、「四万十かいどう」風土調査を継続して取り組み、地域活性化に貢献したい。

本調査に当たって、インフォーマントの上田信昌さん、明神文雄さん、国土交通省四国地方整備局中村河川国道事務所の沖上茂人さん、民宿「いちょうの樹」の上田知子さん、梶原史談会の鎌倉安弘さんには、大変お世話になりました。ここに記して感謝申し上げます。

### 【参考文献】

- (1) 橋尾直和（2009）「高知県幡多郡黒潮町のフィールドワークーフィールド実習Ⅱの報告ー」『高知女子大学文化論叢』第11号 高知女子大学文化学部
- (2) 梶原町史編纂委員会編（1988）『梶原町史2』梶原町教育委員会
- (3) 依光裕編／梶原町生きがい・健康づくり推進会議監修（1999）『山村の暮らし事典ーゆすはらの智恵袋ー』高知県梶原町

### 【参考URL】

<http://map.livedoor.com/pref/39.html>（高知県の地図）

<http://www.nakamura-cci.or.jp/fukei-kaido/index.html>（「四万十かいどう」HP）

（はしお なおかず・本学教授、こばやし なつみ・本学学部4回生、  
さとう かおり・同4回生、ふじばやし あい・同4回生、  
せいけ ゆりな・同3回生、なかむら ようこ・同3回生、よねはら かや・同3回生）